

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	山田洋子	所属	立命館大学衣笠総合研究機構
研究集会等名称	日本心理学会ナラティブと質的研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 31名 (うち認定心理士 1名)</p> <p>非会員 116名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p style="text-align: center;">集会の実施内容と成果</p> <p>1. 集会</p> <p>第7回研究会「ブルーナーと人間をみる眼 (古典を学ぼう I)」 (2014年12月13日, 立命館大学, 講演者: 横山草介氏 (青山学院大学), 主催: 生存のナラティブと質的研究会)</p> <p>2. 特別企画・連携企画による集会等</p> <p>以下の研究集会を主催・共催で企画・実施し, 有意義な議論を行った。</p> <p>(1) 国際セミナー「ナラティブ心理学と教育 (1) - いじめ予防の技法-」 (2014年5月10日, 立命館大学, 主催: 立命館大学生存学研究センター)</p> <p>(2) 国際セミナー「ナラティブ心理学と教育 (2) - 子どもと若者のための多文化コミュニケーションの技法-」 (2014年6月15日, 立命館大学, 主催: 立命館大学生存学研究センター)</p> <p>(3) 講演会「リハビリテーションとナラティブ」 (2014年8月30日, 京都大学, 主催: 京都大学大学院人間・環境学研究科新宮研究室)</p> <p>(4) 国際セミナー「『いたみ』『かなしみ』『他者』の現場」 (2014年9月8日, 大阪大学, 主催: 大阪大学グローバルコラボレーションセンター)</p> <p>(5) 日本心理学会第78回大会シンポジウム「ビジュアル・ナラティブの可能性: 「実感」に基づく質的研究」 (2014年9月11日, 同志社大学)</p> <p>(6) 日本質的心理学会第11回大会「現代における聖地巡礼の多様な意味をめぐって」 (2014年10月19日, 松山大学)</p> <p>(7) セミナー「日本における外国人居住者に対する多職種多文化支援」 (2015年3月20日, 大阪大学東京オフィス, 主催: 大阪大学グローバルコラボレーションセンター)</p> <p>(8) 日本発達心理学会第26回大会ラウンドテーブル「ナラティブ論における『意味』とは何か, いかに捉えるか」 (2015年3月12日, 東京大学)</p> <p>3. 読書会の開催</p> <p>2014年11月15日および2015年1月24日に『Riessman (2008) “Narrative Methods for the Human Sciences”』の文献読書会を開催した。</p> <p style="text-align: center;">将来計画</p> <p>現在, 研究会の会員数は147名を超え, 心理学のみならず, 医学, 看護学, 教育学, 哲学等, 様々な領域の会員が所属しており, 今年度は, 特別企画・連携企画を中心に活発な議論を行った。今後もそのような多様性を活かしつつ, 領域横断的な研究会を企画し, 多声的な対話ができる場所を生成していく予定である。活動内容については, ウェブサイト (http://www.ritsumei.ac.jp/~yyr12085/yyamada/ynarrative.htm) および研究会専用のメーリングリストでも引き続き積極的に情報発信をしていく。</p>		

2015 年 3 月 30 日

日本心理学会研究会 年度会計報告書

研究会名称 ナラティブと質的研究会

研究会番号 研14010

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2015年2月21日	研究会開催関連費 (アダプタ等)	¥22,720
2015年3月31日	返金 (日本心理学会)	¥7,280

支出合計 ¥30,000